

○13番(川上晋平)登壇 私は、新政会を代表して、議案第32号、博多港開発株式会社に対する出資について質問いたします。

博多港開発株式会社は、昭和36年に、博多港の整備を促進し、その近代化を図るために設立され、現在、福岡市と共同でアイランドシティ整備事業を進めています。私ども新政会は、アイランドシティ整備事業については、これまで投入した多大の資金をむだにしないためにも、本市の将来の発展のためにも絶対に成功させなければならない事業であると考えます。

昨年10月末には雁の巣からアイランドシティを経由して香椎や箱崎に通じる道が開通し、市の中心部への距離や所要時間が大幅に短縮され、また、和白周辺の慢性的な交通混雑が緩和されるなど、利便性、快適性が高まり、多くの市民が大変喜んでおります。私は、アイランドシティ整備事業の推進に当たっては、市民の理解、協力を得ながら進めなければならないと考えておりますので、大変うれしく思っておりました。しかしながら、このたび博多港開発株式会社が購入していたケヤキ・庭石に対する疑惑が発覚し、市民は博多港開発株式会社に対し、大きな不信感を募らせております。そんな中で、この増資議案が出てきたわけですが、本来であれば、こういった議案はケヤキ・庭石の疑惑を解明し、市民の不信感を払拭した後に出すべきであると考えます。

そこで質問ですが、ケヤキ・庭石問題が十分に解明されない中、なぜこの時期に博多港開発株式会社に増資しなければならないのでしょうか。また、今回の増資議案が可決されなかった場合、どのような事態になるとお考えでしょうか、お答えください。

以上で1問目を終わり、2問目は自席にて行います。

○13番(川上晋平) 今の答弁によりますと、今回の出資議案が可決されなければアイランドシティ事業自体がとまってしまうおそれがあるということでした。先ほども申しましたが、私ども新政会はアイランドシティ整備事業は市民の理解、協力を得ながら必ず成功させていかなければならない事業であると考えております。本来であれば、ケヤキ・庭石問題が解決されていない時点での今回の増資議案は、決して認められるべきでないということ意見を意見として強く申し上げておきます。

しかしながら、アイランドシティ事業は決してストップさせるわけにはいきません。今まで投入した資金をむだにしないためにも、市民、特に子供たちが夢を描き実現していけるようなまちをつくらなければなりません。将来の福岡市の発展のために、だれもが認めるようなまちをつくらなければならないと思います。そこで、今後はケヤキ・庭石問題の解明はもちろんのこと、博多港開発株式会社のあり方を含め、アイランドシティ整備事業を公明正大に進めていくための全体の体制や経営のあり方を徹底的に見直すべきだと考えますが、市長の決意をお尋ねして私の質問を終わります。